

事業所における自己評価結果（公表）

公表：令和 5 年 2 月 15 日

事業所名 板橋区立加賀福祉園児童ホーム

		チェック項目	はい	いいえ	無回答	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
環境・体制整備	①	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	14	2	0	<ul style="list-style-type: none"> 個別の取り組みは相談室、廊下やパーティションを活用して行っている。 	<ul style="list-style-type: none"> 個別等を行える部屋がもう一つあると支援に活用できる。 子どもの人数が多い時は狭い感じがする。(保護者)
	②	職員の配置数は適切である	11	2	3	<ul style="list-style-type: none"> 職員の欠勤があった際は、他クラス等の職員に協力を仰いだり、クラス合同の機会を設けたりなどしている。 	<ul style="list-style-type: none"> 配置基準以上の人数だが、少ないと感じる職員もいる。 発達の支援やそのための工夫などに先んじて、職員の人手でまかなうことが習慣になっていないか、改めて見直す。
	③	生活空間は、本人にわかりやすく構造化された環境になっている。また、障害の特性に応じ、事業所の設備等は、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされている	8	7	1	<ul style="list-style-type: none"> パーティション、テープや絵などによる手がかり、日程表などを用意している。 支援室の他、バスにもイヤーマフを準備してある。 身体機能面での配慮が必要な児童のクラスは床にマット類が敷きつめてある。 	<ul style="list-style-type: none"> エレベーター設置の要望多いが建物の構造上、難しい。 手洗場、トイレが同じ場所であり、衛生面が疑問。(保護者) 隣の保育室の音が聞こえてしまう。お子さんによっては現状、イヤーマフで対応。
	④	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっている。また、子ども達の活動に合わせた空間となっている	9	7	0	<ul style="list-style-type: none"> 「生活安心プロジェクト」に基づく遊具点検を行っている(半年に一回)。 業者による固定遊具の点検を行っている(年一回)。 新型コロナウイルス感染症流行以前から日々の消毒は行っており、流行以後はさらに徹底している。 床が傷んでいた2つのクラスについて床張替工事を実施。 	<ul style="list-style-type: none"> 工夫しているが建物の老朽化で難しい面が多い。 掃除などはしているが、建物の古さが目立つ。 開閉に難がある扉は修理を申請中。 一部ではあるが、清掃が不十分である。
業務改善	⑤	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している	11	1	4	<ul style="list-style-type: none"> 行事等の企画・反省は職員全体で行っている。 	<ul style="list-style-type: none"> 「PDCAサイクル」という名称は使っていないが業務上の当然の流れとして行っている。
	⑥	保護者等向け評価表により、保護者等に対して事業所の評価を実施するとともに、保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	16	0	0	<ul style="list-style-type: none"> 平成30年度より実施している。 	
	⑦	事業所向け自己評価表及び保護者向け評価表の結果を踏まえ、事業所として自己評価を行うとともに、その結果による支援の質の評価及び改善の内容を、事業所の会報やホームページ等で公開している	14	0	2	<ul style="list-style-type: none"> 平成30年度より結果をHPにて公開している。 	

	⑧	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている	16	0	0	<ul style="list-style-type: none"> ・昨年度、第三者評価を実施。講評に基づき、発達評価表の作成をしている。 	
	⑨	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	13	1	2	<ul style="list-style-type: none"> ・本人の研修希望を含む育成計画を立てて取り組んでいる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・オンライン研修の良さもある。 ・外部研修は受けられていない。 ・多種多様な研修を受講したい。 ・受けた研修内容を他職員へ伝達することが課題。（受講した本人の理解も深まる）。
適切な支援の提供	⑩	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成している	16	0	0	<ul style="list-style-type: none"> ・児童の発達状況を書面化した上で児童発達支援計画を作成している。入園前、年度中間、年度末に保護者に聞き取りを行っている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・お子さん各々の日々のエピソードを発達の観点から考察することを常に意識していく。
	⑪	子どもの適応行動の状況を図るために、標準化されたアセスメントツールを使用している	10	1	5	<ul style="list-style-type: none"> ・発達検査所見、太田ステージ、ポーター、感覚統合、ABAの視点や定型発達の段階表等を療士や心理職の助言を参考にしながら使用している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・適応行動がとれたという結果だけではなく、その過程で何が発達したのかという視点を持つようにする。
	⑫	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「発達支援（本人支援及び移行支援）」、「家族支援」、「地域支援」で示す支援内容から子どもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されている	14	0	2	<ul style="list-style-type: none"> ・児童やご家庭の全体像を捉えて目標を定めてから各項目に下ろして検討、作成している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・どの支援をどの項目に記入していくかは児童やご家庭の状況によって検討する必要がある。
	⑬	児童発達支援計画に沿った支援が行われている	16	0	0	<ul style="list-style-type: none"> ・「支援計画実施経過表」を作成しており、随時チェックしている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・左記の経過表の利用により、実行が伴う計画になっている。
	⑭	活動プログラムの立案をチームで行っている	16	0	0	<ul style="list-style-type: none"> ・クラスでの話し合いは、まとまった会議以外にも日常的に行われている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・様々な発達状況の児童がいる中で、個々のねらいを明確にしながら立案できているか振り返るようにする（ねらいありきで、そこに児童を合わせるようにしないよう留意）。
	⑮	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	16	0	0	<ul style="list-style-type: none"> ・継続して行い積み重ねることによる変化等にも留意している。 	
	⑯	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせさせて児童発達支援計画を作成している	16	0	0	<ul style="list-style-type: none"> ・左記の点、留意して作成している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・登園日数(曜日)により参加可能な行事が異なるようにして欲しい（保護者）
	⑰	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	16	0	0	<ul style="list-style-type: none"> ・左記の点、行っている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・事前の計画などは大切だが、一方、児童の活動が予定外の方向に進んだ時に、それを一緒に展開できる保育技術の獲得も念頭において取り組む。

	⑱	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	13	2	1	<ul style="list-style-type: none"> 毎日の終礼の他、日常的な会話の中でも保育や支援の話をする雰囲気大切にしている。 	<ul style="list-style-type: none"> 時間として取っていないこともあるが、消毒、清掃中など共有する時間もある。
	⑲	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	15	0	1	<ul style="list-style-type: none"> 記録用紙に入力出来ない時もメモに残し後日入力している。 	<ul style="list-style-type: none"> 他職員の記録内容について、別方向からの捉えがあれば追記、共有する等、活用していく。
	⑳	定期的にもモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断している	16	0	0	<ul style="list-style-type: none"> 「支援計画実施経過表」を用い、随時チェックしている。 	
関係機関や保護者との連携	㉑	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	13	0	3	<ul style="list-style-type: none"> 各関係者が出席している。 	
	㉒	母子保健や子ども・子育て支援等の関係者や関係機関と連携した支援を行っている	16	0	0	<ul style="list-style-type: none"> 必要に応じて保健師や子ども家庭総合支援センターと連絡を取り合ったり会議を持ったりしている。 	<ul style="list-style-type: none"> 関連機関と連絡を取り合い、ご家庭も含めた支援を考える機会が増えている。
	㉓	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合)地域の保健、医療、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携した支援を行っている	13	0	3	<ul style="list-style-type: none"> ケースに応じて相談支援専門員を介しながら取り組んでいる。 	<ul style="list-style-type: none"> 多くの機関が関わっているケースにおいて支援等の方向性の調整には常々、留意しておく必要がある。
	㉔	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合)子どもの主治医や協力医療機関等と連絡体制を整えている	15	0	1	<ul style="list-style-type: none"> 必要に応じて、主治医訪問や受診同行を行い、支援中の留意点等確認している。 	
	㉕	移行支援として、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	15	0	1	<ul style="list-style-type: none"> 積極的に電話連絡や訪問などで情報共有するようにしている。 移行後のサポートとしてのグループを園として持っている。 	<ul style="list-style-type: none"> 移行支援としての保育所等との相互理解だけではなく、地域のお子さんの支援を共に考えていく協力園を作ることを検討中。
	㉖	移行支援として、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	16	0	0	<ul style="list-style-type: none"> 就学支援シートや引き継ぎ資料の作成、学校側担任と弊園職員の面談を行っている。 	<ul style="list-style-type: none"> 小学校の支援級の見学や情報共有が課題であったが、それらの機会が増え始めている(相談支援専門員)。
	㉗	他の児童発達支援センターや児童発達支援事業所、発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	14	0	2	<ul style="list-style-type: none"> 板橋区乳幼児の発達を支援する関係機関連絡会(発達ネット) 板橋区児童発達支援事業所連絡会 	<ul style="list-style-type: none"> 他地域の事業所との関わりは意識的にならないと機会を逸してしまう(都内施設の連絡会や公開研修などが減少している)。
	㉘	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、障害のない子どもと活動する機会がある	14	1	1	<ul style="list-style-type: none"> 年長児の地域交流保育(ご自宅近隣の保育園の活動に職員と児童で参加)を設定している。 区立保育園の要支援児体験保育の情報を提供している。 	<ul style="list-style-type: none"> コロナ渦で交流が難しい。 交流ではいつもと違う面が見られている。(保護者) 本人はまだ交流をした事がない。(保護者) コロナ対策で制限があるため交流が少なく感じる事もあるが、可能な範囲で交流の機会をつくられていると思う。(保護者) 並行通園の他、年長のお子さんには地域交流保育という機会があるが、全体交流の機会は4年度も持てず、課題である。
	㉙	(自立支援)協議会子ども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加している	9	1	6	<ul style="list-style-type: none"> 自立支援協議会員として児童発達支援管理責任者が参加している。 	<ul style="list-style-type: none"> 子ども向けイベントの開催のため、対面での会議に参加、オンラインでの配信を実施。

保護者への説明責任等	③⑩	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	15	0	1	<ul style="list-style-type: none"> 日々の連絡帳や随時行う面談等を通して行っている。 行事、集会などは参加人数、時間などを調整して実施している。 	<ul style="list-style-type: none"> 感染症対策のために全クラス合同での行事、集会などの実施には工夫が必要。
	③⑪	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対して家族支援プログラム（ペアレント・トレーニング等）の支援を行っている	13	0	3	<ul style="list-style-type: none"> ペアレント・トレーニングとして体系化されたものは導入していないが、関わり方・伝え方などその時々に応じて相談しながら一緒に考えている。 	<ul style="list-style-type: none"> それぞれの家庭の事情を考え、各家庭ごとにより良い支援を考えていく。
	③⑫	運営規程、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	12	0	4	<ul style="list-style-type: none"> 契約時や重要事項説明書の説明会にて行っている。 	<ul style="list-style-type: none"> 日本語が母国語でない保護者への説明は課題。
	③⑬	児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」のねらい及び支援内容と、これに基づき作成された「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ている	15	0	1	<ul style="list-style-type: none"> 保護者への説明の際に、ガイドラインの項目を確認しながら行っている。 	
	③⑭	定期的に、保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	14	0	2	<ul style="list-style-type: none"> 個別面談、連絡帳、親子通園、電話などご家庭に合わせて行っている。 	<ul style="list-style-type: none"> 「忙しいところすみません」と言われることがあるので、言いにくい雰囲気になっていないかを気を付けている。
	③⑮	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	15	0	1	<ul style="list-style-type: none"> 父母会に活動場所を提供する等の協力をしている。 	<ul style="list-style-type: none"> 保護者が一同に会する機会のひとつとして行事があったが、新型コロナウイルス感染症流行以前の形に戻せるか、また全てを戻すのか等は検討が必要。
	③⑯	子どもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応している	15	0	1	<ul style="list-style-type: none"> 朝終礼だけではなく施設長あるいは上長へ対応を仰ぐことがスムーズに行われている。 クラス職員により解決したのも報告が迅速になされている。 	
	③⑰	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	15	0	1	<ul style="list-style-type: none"> 締切のある提出物は、折々で締切日を統一できないか検討予定。 	<ul style="list-style-type: none"> 園からのお知らせを紙または電話以外にアプリやメール、LINEも利用してほしい（保護者）
	③⑱	個人情報の取扱いに十分注意している	15	0	1	<ul style="list-style-type: none"> 「個人情報持ち出し簿」等を使用して管理している。 「個人情報取り扱い同意書」にて同意を得ている。 	<ul style="list-style-type: none"> 支援中の職員同士の会話の中で個人情報に触れないよう留意する。
	③⑲	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	16	0	0	<ul style="list-style-type: none"> 視覚的手掛かり等を活用している。 語気、言葉の選び方等に留意する。 日本語が母国語でない保護者へわかりやすく伝える方法などを、その都度検討している。 	<ul style="list-style-type: none"> 「伝えた」ではなく「伝わった」かどうか留意する。
④⑩	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている	10	4	2	<ul style="list-style-type: none"> 福祉園祭、夏祭り等の行事は今年度も縮小あるいは中止となった。 	<ul style="list-style-type: none"> 新型コロナウイルス感染症対策のため、地域住民を招いての実施は限定的となっている。 	

	④①	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や保護者に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施している	16	0	0	<ul style="list-style-type: none"> 看護師によるガウンテクニックを全職員対象に年一回実施。 児童が口にする可能性のある物や場所については食品添加物アルコール製剤を使用して毎日消毒している。 	<ul style="list-style-type: none"> 口元が見えるマスクの使用場面等はまだ模索中。
非常時等の対応	④②	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	16	0	0	<ul style="list-style-type: none"> 毎月一回、設定を変えながら避難訓練を実施。 	<ul style="list-style-type: none"> 防災扉の存在を意識し、周囲に物を置かないよう徹底する。
	④③	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認している	15	0	1	<ul style="list-style-type: none"> 嘱託医による健診も含め入園前に聞き取っている。 予防接種は母子手帳で確認している。 てんかん発作等がある児童については必要に応じて主治医訪問・受診同行等を実施。 	<ul style="list-style-type: none"> 発作については環境要因もあるので、事前調査のみでなく日々の観察も重要である。
	④④	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	16	0	0	<ul style="list-style-type: none"> 栄養の偏りがないうち留意して代替食を提供している。医師の指示書に基づき、区内共通のアレルギー対応表を使用しながら対応している。 給食では卵は不使用（一部のパン除く）。 	<ul style="list-style-type: none"> 給食の場面以外でも原因食物に触れることがないように、全員の手洗いや清掃などにも引き続き留意していく。
	④⑤	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	16	0	0	<ul style="list-style-type: none"> ヒヤリハットの他にメモ的に記録を残せる「気づいたことノート」というものを用意し、すぐに記録できるようにしてある。また、終礼などでその内容を共有している。 	<ul style="list-style-type: none"> ヒヤリハット事例はもっとあるのではないかと指摘を内部的に受けている。
	④⑥	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	16	0	0	<ul style="list-style-type: none"> 虐待に関するセルフチェックを行っている。今年度より3ヶ月毎に行なっている。 全国保育士会編の「人権擁護のためのセルフチェックリスト」を使用。 	<ul style="list-style-type: none"> 「セルフ」だけでは気づけないこともあるので、他者からの視点も取り込む。
	④⑦	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載している	15	1	0	<ul style="list-style-type: none"> 左記については重要事項説明書においても確認を行っている。 	<ul style="list-style-type: none"> 児童各々の発達状況に合わせて、大人が手を添えて児童の行動（静止も含む）を方向付けることについては児童発達支援計画に記載している。

○ この「事業所における自己評価結果（公表）」は、保護者の方からの評価も踏まえ、事業所全体で行った自己評価です。